

## 目次

- 1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 . . . p. 2
- 2 人材需要の動向等社会の要請 . . . p. 6

学生の確保の見通し等を記載した書類

## 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### ① 学生の確保の見通し

#### ア 定員充足の見込み

神戸女子短期大学（以下「本学」という。）は入学定員の適正化を図るため、総合生活学科、食物栄養学科及び幼児教育学科の各学科の入学定員、収容定員を以下のとおりに変更する。

	入学定員		収容定員	
	変更前	変更後	変更前	変更後
総合生活学科	100	40	200	80
食物栄養学科	60	40	120	80
幼児教育学科	80	40	160	80
合計	240	120	480	240

少子化による18歳人口の減少、全国的に短期大学の志願者数の減少等（資料1：表1・表2）の様々な要因により、本学の各学科ともに志願者数は減少している。各学科別に過去5年間の平均入学定員充足率も総合生活学科が68.52%、食物栄養学科が68.46%、幼児教育学科が56.35%となっている（資料2：表1・表2・表3）。このことから、本学は定員充足率の向上を図るため、各学科の入学定員及び収容定員を変更する。

#### 総合生活学科

生活の基本である衣・食・住から情報・ビジネス等までさまざまな要素を一步深めて学べ、やりたいことがたくさんある人は、自分の可能性がさらに広がることで、幅広く学んで自分の道を見つけられる魅力ある学科となっている。しかしながら、志願者数は現入学定員を充足するに足る人数ではなく、令和3年度に入学定員を120名から100名に変更し、その後3年間の平均志願者数が約250人、平均入学者数は75人（資料2：表1）となっているが、令和5年度の入学者数は42名であったことから、実態に合わせた入学定員として40名とし、一定水準以上の志願倍率を確保しながら、今後も充分確保できる入学定員と考える。

## 食物栄養学科

子どもの食育やメタボリックシンドロームなどが大きな社会問題となり、食や健康に関する関心が高まってきている中、日々の健康を支える「食」を提供する確かな技術と、こころとからだの成長に役立つ「食」のあり方を考え実践する力を養うことを目的に、知識や教養はもちろん、実験・実習にウェイトを置いた授業内容で、卒業後に栄養士として即戦力となる多くの食育のスペシャリストを輩出してきた。このような取組に対して、受験生、保護者、高等学校からは一定の評価を得てきている。

令和3年度には、全国的な栄養・食物学の志願者動向が「リクルート入試実態調査」において衰退期であり、より実態に合った入学定員として120名から60名としたが、定員の充足に至らず、その後3年間の平均志願者数は206人（資料2：表2）で、平均入学者数が43人である。入学定員充足率が70%程度であることから、60名の約7割である40名を入学定員とし、一定水準以上の志願倍率を確保しながら、入学定員に見合う入学者数を確保することは十分可能であると考ええる。

## 幼児教育学科

人間の成長や発達についての専門的理解を踏まえた保育実践力を身に付け、子どもへの愛情あふれた保育者としての高い資質を備え、社会にとって自立した有意な女性を育成してきた。このような取組に対して、受験生、保護者、高等学校からは一定の評価を得てきているが、令和3年度に入学定員を100名から80名に変更した。しかしながら、定員の充足には至らず、過去3年間の平均志願者数は196人（資料2：表3）で、平均入学者数は35人となっていることから、実態に合わせた入学定員として40名とし、一定水準以上の志願倍率を確保しながら、今後も充分確保できる入学定員と考える。

## イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

日本私立学校振興・共済事業団（平成30年度から令和4年度の私立大学・短期大学入学志願動向）の調査では、全国及び本学の設置場所である兵庫県の短期大学の学校数、入学定員、受験者数、入学者数は過去5年間減少し続けている。入学定員充足率も減少傾向にあり過去5年間の平均充足率が全国84.53%、兵庫県84.34%で入学定員を充たせない状況となっている（資料1：表1・表2）。本学においても入学者数は減少傾向にあることから入学定員の見直しを実施するが、近年の入学者数実績に合わせた入学定員とすることから、入学定員を充たせるものとする。具体的には過去5年間の各学科の入学志願状況等は次のとおりである。

### 総合生活学科

志願者数は、平成 31 年度 261 名、令和 2 年度 254 名、令和 3 年度 313 名、令和 4 年度 252 名、令和 5 年度 184 名（資料 2：表 1）で、一定の志願者数は確保できているが、入学者数は定員 120 名に対して、98 名、108 名、令和 3 年度からは、定員 100 名に対して 68 名、61 名、42 名となっていることから、入学者数は減少傾向にあるが、実態に合わせた人数として入学定員を 100 名から 40 名とすることで、定員の充足は可能と考える。

### 食物栄養学科

志願者数は、平成 31 年度 233 名、令和 2 年度 169 名、令和 3 年度 237 名、令和 4 年度 287 名、令和 5 年度 95 名（資料 2：表 2）と令和 5 年度に急激に志願者数が減少している。そのため、令和 5 年度の定員充足率は 54.1%となり、過去 5 年間の入学者数を見てみると平成 31 年度から 89 名、65 名、令和 3 年度に定員変更後も定員充足に至らず、入学者数は 54 名、42 名、34 名で、過去 5 年間の平均入学者数は 57 名となっている。令和 5 年度に急激に入学者数が減少し 34 名となっていることから、入学者数の減少は続いているが、より実態に合った入学定員として 40 名にすることで、一定の教育水準を確保し、定員の充足は可能と考える。

### 幼児教育学科

志願者数は、平成 31 年度 176 名、令和 2 年度 136 名、令和 3 年度 248 名、令和 4 年度 222 名、令和 5 年度 118 名（資料 2：表 3）と推移し、減少傾向が継続しているが、入学者数は定員 100 名に対して、80 名、68 名、令和 3 年度に定員変更後も定員充足に至らず、入学者数は 43 名、42 名、22 名で、過去 5 年間の平均入学者数が 51 名となっている。令和 5 年度に急激に入学者数が減少し 22 名で 3 年間の平均が 35 名となっているが、令和 4 年度までの実績、令和 6 年度からの長期履修制度の導入を鑑み、入学定員を 40 名とすることで定員の充足は可能と考える。

令和 4 年度のオープンキャンパスでは、各学科の来場者数が総合生活学科 120 人、食物栄養学科 70 人、幼児教育学科 71 人となっており（資料 3：表 1）、令和 3 年度より減少し、各学科の志願者数（資料 2：表 1、表 2、表 3）も急激に減少しているが、過去 5 年間の平均志願者数は総合生活学科が 253 名、食物栄養学科 204 名、幼児教育学科 180 名、3 学科への資料請求者数は 737 人（資料 3：表 2）で、前年比約 97%であり、定員削減後の入学定員は確保できるものと考ええる。

## ② 学生確保に向けた具体的な取組状況

各学科の学生確保に向けて、以下に示す取組を実施する。

### ア 受験生向けメディアの活用

受験情報誌（リクルート、ベネッセ、キッズコーポレーション他）において各学科の概要を高校生が進路に関心を持ち始める時期を中心にして広告記事を掲載し、資料請求者は令和4年度737人（資料3：表2）で、資料を請求した受験生に対しては時期や地域に応じてオープンキャンパスや進学相談会等の情報を提供し、参加を促している。

### イ Web を活用した情報提供

本学ホームページにおいて、学科の目標、学修内容、就職、進学、資格など学科の情報を多岐にわたって紹介しており、別途、同一法人の神戸女子大学と一体となった受験生向けホームページを開設して、入試情報、イベント情報、キャンパスライフ、各種動画、学生インタビュー記事等を掲載し、受験生に対して入試情報や学生生活等の全般にわたって本学ホームページとは異なる視点から情報提供を行っている。

### ウ 資料請求者に対する情報提供

資料請求者に対しては『大学案内』や『入試ガイド』の他に、オープンキャンパスや入試情報等のダイレクトメールでの告知を行っており、継続的な学校情報の提供を行っている。

### エ オープンキャンパス等イベントでの情報提供

令和4年度はオープンキャンパスを6月から3月まで合計7回実施し、計261人（資料3：表1）総合生活学科120人、食物栄養学科70人、幼児教育学科71人の高校生が神戸女子短期大学を志望した。本学の特色を活かした展示・授業体験・学科相談・在学生とのフリートークを始め、入試相談、キャンパスツアー、保護者説明会等様々なプログラムを実施し、各学科の内容や在学生の様子等を理解できるよい機会を提供している。

また、令和5年度においては年間開催回数を10回に増やし、4月、5月は神戸女子短期大学限定のオープンキャンパスを開催する。今まで実施していなかった早期の段階から入試情報の詳細な説明や在学生や教職員との接点をより多く提供する。

### オ 高等学校に対する情報提供

本学には高等学校訪問の専従職員が3人在職し、本学の受験実績校を中心に広く丁寧に、約300の高等学校を延べ1,000回訪問し各高等学校の進学状況に応じて情報の提供を行っている。また本学独自の高等学校教員対象の説明会や高等学校内ガイダンス、高等学校単位でのキャンパス見学の受け入れ等も含め、様々な手法で情

報提供を行っている。

#### カ 多様な入試制度

本学では多彩な入試方法を実施しており、令和 5 年度入試においては、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜の入試を実施し、その枠組みの中で多種多様な入試を実施している。令和 5 年度の公募制推薦入試においては 6 科目（英語・国語・化学・生物・数学・日本史）、一般入試においては最大 7 科目（英語・国語・化学・生物・数学・日本史・世界史）を用意し、文系・理系を問わず多くの受験生が受験しやすい体制をとるだけでなく、2 科目入試や 1 科目入試を選択できるよう設定している。

また、兵庫県以外からの受験生も多いため、学外試験会場として公募制推薦入試前期、一般入試前期ともに 12 会場（東京・金沢・名古屋・京都・大阪・和歌山・米子・岡山・広島・松山・高松・福岡）を設けるなど近畿地区だけでなく遠隔地からの受験生の負担が少なくなるよう試験会場を設定している。

#### キ 長期履修生、職業訓練生の受け入れ

経済的にゆとりのない学生に対しての奨学金対応だけでなく、令和 6 年度の入学生から長期履修制度を導入し、2 年間の学納金を 3 年間で納付できるよう経済的負担の軽減を図り、より学修の機会を容易にできるようにする。また、幼児教育学科では、令和 4 年度からリカレント教育の一環としての職業訓練生（保育）の受け入れを開始した。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

#### （人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的）

本学の目的は、「教育基本法及び学校教育法に基づき、女性生活に関する教養と技術について高等教育を施し、望ましい社会人を育成することを目的として、もって我が国の文化の進展に寄与すること」である。また、「民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成する」と定めた「建学の精神」に基づき、21 世紀社会に貢献する「自立心・対話力・創造性」を備えた次のような女性を育成することを目指している。

- ・ 勤労を愛し、義務と責任を重んじ、主体的に社会参画を果たそうとする自立心を備えた女性
- ・ 相手の心情をよく理解し、自分の意思を豊かに表現することのできる対話力に

優れた女性

- ・ 学術の研究を通して身に付けた識見をもとに、自ら主体的に考え問題解決を図ろうとする創造性に富んだ女性

### 総合生活学科

衣・食・住を含む生活空間、及び情報・ビジネス・CG デザイン、コミュニケーション、心理まで人生を豊かにするさまざまな要素を一步深めて学び、社会における諸現象や諸問題を教育研究の対象とし、生活に関わる種々の課題を自らの目線で能動的に捉え、本学科で学んだ講義・演習・実習等を通して、より高い次元で問題解決を図ろうとする意欲と実践力を身に付けた人材を養成することを目的としている。

具体的には、以下の能力と態度を有した人材の養成を行っている。

#### 【知識・技能】

生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有し、選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。

#### 【思考力・判断力・表現力等の能力】

客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力並びに現代社会の課題発見能力と課題解決能力等を有するとともに社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力と未来を切り開く創造力を有している。

#### 【主体性・多様性・協働性】

実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力と多様なものの見方や考え方を尊重し、人々と協働して学修を進める力を有している。

### 食物栄養学科

「人間性豊かな食と健康のクリエーション」をスローガンに、時代が求める「食」のスペシャリストの育成を目指している。それを達成するため、食と健康に関わる諸問題について系統的な研究と教育を行い、健康な生活を送るために必要とされる幅広い知識と深い専門性を備えた、社会にとって有為な自立した女性の育成を教育研究上の目的としている。

具体的には、以下の能力と態度を有した人材の養成を行っている。

#### 【知識・技能】

食品、栄養と健康に関する専門知識、食育の実践に必要となる知識・技能を身に付けるとともに健康管理、食品の開発や管理、食と健康に関する研究等を行うために必要となる知識・技能も身に付けている。

**【思考力・判断力・表現力等の能力】**

食と健康に関する情報を客観的に理解し情報ツールを使いこなす課題を解決する能力や判断力及び食に関する課題について、創造的思考力を持って解決でき、専門知識や技能を活用し、食事指導や食事管理に携わることができるプレゼンテーション能力を身に付けている。

**【主体性・多様性・協働性】**

社会人（栄養士）として必要なコミュニケーション能力、食と健康に関する問題を主体的に学ぼうとする態度と食と健康に関して生涯にわたり学ぶ姿勢及び専門知識や技能を活用し、社会に貢献できる能力を身に付けている。

## 幼児教育学科

人間の成長や発達について、また保育・教育の方法についての専門性を深めるための教育研究を行い、子どもへの愛情にあふれ、職場の人々や子どもの保護者さらに地域社会と豊かに交わるための高いコミュニケーション力を持った保育者として、社会に貢献できる人材の養成を目的としている。

具体的には、以下の能力と態度を有した人材の養成を行っている。

**【知識・技能】**

現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有するとともに子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発達を促すための知識・技能を有している。

**【思考力・判断力・表現力等の能力】**

幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有し、課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができるとともに保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。

**【主体性・多様性・協働性】**

幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有し、様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができるとともに、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。



## (教育課程の編成方針)

### 総合生活学科

自らのキャリアプランに応じて科目を選択し総合的に学べるよう体系的なカリキュラムによってつぎのように教育課程を編成している。

- 学科基礎科目の必修科目として、「総合生活論」、「基礎ゼミ」、「総合生活演習」、選択科目として「被服学」「食品学」「住居学」等の生活全般に関わる基礎知識・基礎技術の習得を中心とする専門科目でカリキュラムを編成している。
- 学科の選択科目は 7 科目群で「服飾デザイン」「フードデザイン」「住居デザイン」「情報・ビジネス」「心理」等を自らのキャリアプランに応じて科目を選択し総合的に学べるよう体系的なカリキュラムを編成している。
- 各科目で身に付けた専門的知識・技術を基にして、応用力や実践力が身に付くよう、講義形式、演習形式、実験・実習形式など、科目の特性に応じた多様な方法で授業を行っている。
- 以下の資格や免許等が取得できる科目編成をしている。  
二級建築士・木造建築士(受験資格)、フードコーディネーター3級、秘書士、プレゼンテーション実務士

### 食物栄養学科

資質の高い社会の即戦力となる栄養士を育成するため、「栄養士資格に関する科目」、「栄養士以外の資格に関する科目」、「選択科目」によって次のように教育課程を編成している。

- 「栄養士資格に関する科目」は、卒業必修科目と栄養士資格取得に必要な科目に分けて配置している。実習や実験を多く取り入れることにより、栄養士として必要な、食品・栄養と健康に関する基礎的な知識や実践的な能力を身に付けることができるようにカリキュラムを編成している。
- 「選択科目」では、基礎知識を補う専門科目に加えて応用科目を開講し、社会人(栄養士)として、社会のニーズに対応した専門知識や技能を活用し、社会に貢献できる能力を身に付けることや、食品に関する専門知識や、食品の管理や開発に関する専門知識を身に付けることができるようなカリキュラムを編成している。

### 幼児教育学科

資質の高い保育者を育成するために以下のような専門科目によって、教育課程を編成している。

- ・保育者に相応しい能力を育てるために、専門的な方法論と知識及び技能を体系的に学ぶことを目的に、専門科目、幼稚園教諭二種免許状取得に関する科目、保育士資格取得に関する科目を設置する。
- ・知識の活用能力、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力、コミュニケーション力などを総合的に学修し、研究やディスカッションを実践的に積み上げる参加型の少人数授業を開講する。

## ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

神戸女子短期大学は、「民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成する」と定めた「建学の精神」に基づき、21世紀社会に貢献する「自立心・対話力・創造性」を備えた女性を育成することを目指しており、社会的、地域的な人材需要としては、これまでの求人件数の推移から十二分にあることが言える（資料4：表1）。各学科別の就職状況等については、つぎのとおりである。

### 総合生活学科

生活の基本である衣・食・住からさまざまな要素を一步深めて学べ、幅広く学ぶことができる学科として、令和5年3月卒業生の就職先としては、業種別に小売が最も多く34%、次いでサービス20%、3番目に運輸・通信14%、4番目に製造10%となっている（資料5）。就職率は、過去5年間は90%以上で平均97.7%（資料4：表2）となっていることから学生支援体制の強化やキャリア教育及び専門教育の充実化により、短期大学である本学総合生活学科が養成する人材は、今後も社会的・地域的な需要が十分見込め、社会の期待に応えていけるものと考えている。

### 食物栄養学科

栄養士養成施設の指定を受けている学科であり、栄養士資格に関する科目として、「社会生活と健康」、「人体の構造と機能」、「食品と衛生」、「栄養と健康」、「栄養の指導」、「給食の運営」を配置し社会の各分野に対応でき、特に、食品関係の企業の要望に応えられる人材育成を行っている。

令和5年3月卒業の職種別就職実績としては、栄養士が83%で、販売が7%となっている。業種別では給食が最も多く70%、保育・認定こども園が16%、小売7%、となっていることから、多くの卒業生が食品関係の企業への就職、栄養関連に就業している（資料5）。

就職率は、過去5年間の平均が98.5%（資料4：表2）となっていることから、学生支援体制の強化やキャリア教育及び専門教育の充実化により、短期大学である本学食物栄養学科が養成する人材は、今後も社会的・地域的な需要が十分見込め、社会の期待に応えていけるものと考えている。

### 幼児教育学科

本学科では、子どもたちを笑顔にできるそして子どもたちの未来を育むことのできる「保育者」を養成している。

令和5年3月卒業の職種別就職実績としては、卒業生の92%が養成している「保育者」として就職し、業種別では認定こども園51%、保育園27%、幼稚園14%となっている（資料5）。就職率については、9年間継続して100%（資料4：表2）で、去年は94.9%となったものの過去5年間の平均就職率は99.0%であることから引き続き専門教育の充実化により、短期大学である本学幼児教育学科が養成する人材は、今後も社会的・地域的な需要が十分見込め、社会の期待に応えていけるものと考えている。

(添付資料)

資料1. 全国短期大学入学定員充足率等の推移、兵庫県短期大学入学定員充足率等の推移

資料2. 学科別入学志願状況推移

資料3. オープンキャンパス学科別来場者数推移、資料請求者数推移

資料4. 神戸女子短期大学求人件数推移、神戸女子短期大学就職率推移

資料5. 令和5年3月卒業者の進路状況

■表1 全国短期大学入学定員充足率等の推移

日本私立学校振興・共済事業団（平成31年度私立大学・短期大学入学志願動向より抜粋し、本学で作成）

年度（和暦）	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年間平均	5年間の減少人数
学校数	301	297	291	286	279	291	22
入学定員（人）	58,161	55,885	53,717	52,242	50,857	54,172	7,304
志願者数（人）	75,631	72,587	70,019	60,363	53,436	66,407	22,195
受験者数（人）	73,494	70,384	67,796	58,331	51,779	64,357	21,715
合格者数（人）	61,904	59,531	57,871	53,452	48,014	56,154	13,890
入学者数（人）	51,214	48,705	46,901	43,132	39,461	45,883	11,753
入学定員充足率（%）	88.06	87.15	87.31	82.56	77.59	84.53	—

■表2 兵庫県短期大学入学定員充足率等の推移

日本私立学校振興・共済事業団（私立大学・短期大学入学志願動向より抜粋し、本学で作成）

年度（和暦）	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年間平均	5年間の減少人数
学校数	16	15	15	15	14	15	2
入学定員（人）	3,520	3,230	2,785	2,660	2,480	2,935	1,040
志願者数（人）	6,267	6,162	6,228	5,366	4,420	5,919	1,847
受験者数（人）	5,421	5,302	5,355	4,599	3,863	5,085	1,558
合格者数（人）	4,246	4,360	4,219	4,089	3,488	4,223	758
入学者数（人）	2,575	2,556	2,457	2,293	2,054	2,435	521
入学定員充足率（%）	80.47	87.84	88.22	76.95	73.36	84.34	—

■学科別 入学志願状況推移

表1 総合生活学科入学志願状況推移

年度（和暦）	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	5年間平均
志願者数(人)	261	254	313	252	184	253
受験者数(人)	261	249	290	228	146	235
合格者数(人)	229	213	255	208	142	209
入学定員(人)	120	120	100	100	100	—
入学者数(人)	98	108	68	61	42	75
入学定員充足率(%)	81.60	90.00	68.00	61.00	42.00	68.52

表2 食物栄養学科入学志願状況推移

年度（和暦）	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	5年間平均
志願者数(人)	233	169	237	287	95	204
受験者数(人)	233	169	222	269	79	194
合格者数(人)	197	128	179	238	72	163
入学定員(人)	120	120	60	60	60	—
入学者数(人)	89	65	54	42	34	57
入学定員充足率(%)	74.10	54.10	90.00	70.00	54.10	68.46

表3 幼児教育学科入学志願状況推移

年度（和暦）	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	5年間平均
志願者数(人)	176	136	248	222	118	180
受験者数(人)	174	136	230	205	88	167
合格者数(人)	164	119	195	182	82	148
入学定員(人)	100	100	80	80	80	—
入学者数(人)	80	68	43	42	22	51
入学定員充足率(%)	80.00	68.00	53.75	52.50	27.50	56.35

■表1 オープンキャンパス学科別来場者数推移

年度（和暦）	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年間平均
総合生活学科(人)	266	336	64	145	120	186.2
食物栄養学科(人)	271	239	52	92	70	144.8
幼児教育学科(人)	394	384	51	133	71	206.6
計	931	959	167	370	261	537.6

■表2 資料請求者数推移

年度（和暦）	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年間平均
総合生活学科(人)	411	385	141	217	231	277.0
食物栄養学科(人)	410	360	172	256	226	284.8
幼児教育学科(人)	687	541	195	289	280	398.4
計	1,508	1,286	508	762	737	960.2

■表1 神戸女子短期大学 求人件数推移

【単位：件】

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
短大計	2,681	3,201	2,814	2,665	3,362	3,266	2,820	11,539	11,187	10,354	11,828

(平成31年度から求人ナビサイト導入により企業側からのWEB登録としたため、求人件数が急激に増加)

■表2 神戸女子短期大学 就職率推移

※学科別の就職者数÷就職希望者数

【単位：％】

年月	26年3月卒業	27年3月卒業	28年3月卒業	29年3月卒業	30年3月卒業	31年3月卒業	2年3月卒業	3年3月卒業	4年3月卒業	5年3月卒業	直近5年間平均
総合生活学科	85.7	85.3	92.3	95.5	98.8	98.6	98.8	97.3	97.6	96.2	97.7
食物栄養学科	92.4	96.9	98.9	99.0	98.8	97.2	100.0	100.0	97.7	97.7	98.5
幼児教育学科	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.9	99.0

※短大全体の就職者数÷就職希望者数

【単位：％】

年月	26年3月卒業	27年3月卒業	28年3月卒業	29年3月卒業	30年3月卒業	31年3月卒業	2年3月卒業	3年3月卒業	4年3月卒業	5年3月卒業	直近5年間平均
短大全体	93.3	94.1	97.1	98.1	99.2	98.7	99.6	99.1	98.4	96.3	98.4



